

## 【千人つか】

昭和20年の大阪大空襲で、市内のいたるところに身元不明の遺体が多数放置されていました。それらの遺体は市民奉仕で城北公園裏の淀川の堤防に集められ、千数百体の遺体がだびにふされました。

遺骨は土中に葬られ、いつしか雑草に埋もれて忘れ去られようとしていました。

これを見た区民の方が、庭石に「千人つか」と刻んで遺骨の眠る上に置き、その冥福を祈って安置されたのが由来であります。



■城北川(写真:上田泰彦)



■城北川(写真:上田泰彦)

## 【淀川わんど】

明治時代、船が安全に往来できるよう「ケレップ水制」(水の流れを制御するための構造物)という工事がおこなわれる。この水制に土砂が堆積し、本流と隔離された小さな池が連なって「ワンド」という独特の地形ができる。

## 【豊里大橋】

都市計画道路。新庄大和線(大阪内環状線)、全長0.9km 幅18mの大橋で昭和45年3月3日完成、型式は斜張橋。その陰では、橋の完成で「平田渡し」が廃止になる。

〈福田輝雄〉



■城北川(写真:上田泰彦)

## 城北(赤川) 今、昔、思いつつ ブラ歩き

秋の日、地域史づくりのメンバーが城北公園に集まった。この公園も淀川改修前は川の中であった。春は梅(老木)、桜、花菖蒲、秋、菊花展。池では鯉・タナゴチモロコ、釣り人、冬はカモ・ユリカモメが遊ぶ、多くの人達の憩いの場所。



■城北公園(平成21年6月24日の「まちあるき」にて)

淀川の堤防に登り千人塚にまいる。菅原城北大橋はワンド群やヨシ原など周囲とマッチする。斜張橋の橋上からは日出・夕日の美しい景色・大阪市内を一望できるスポット。

明治時代、船が安全に往来できるように淀川がケレップ水削工事で改修された。ケレップ水削工事により、土砂が体積し本流と隔離され出来た池ワンド群を見る。堤防にはワンドに生息する魚類の看板をみる。淀川左岸を下り、赤川方面へ。昔の赤川は、淀川の中のアシや水草の生い茂った所であった。淀川の上流から運ばれた泥砂によって出来、一面が湿地となった。土地が低く湿地が多いため、淀川のたびかさなる洪水で田畑、家が流された歴史。



■菅原城北大橋  
(平成21年6月24日の「まちあるき」にて)



■赤川廃寺跡碑  
(平成21年6月24日の「まちあるき」にて)

赤川廃寺跡碑(昭和3年半淀川左岸で弥生式土器須恵器をはじめ遺物が護岸工事が完成しておらず川岸に遺物を含む土層が露出していた)をさらに下り赤川鉄橋へ。戦前からあるトラス型の古いもので人と列車が渡る珍しい鉄橋。堤防下では昔なつかしい(昭和30年頃～)ラーメン屋台が数台並んでいる。終戦すぐに住む家に困り市バスを並べて市民が住んだ処だ。

日吉神社を参拝。古い家が多く残っているこのあたりの場所を見ながら城北小学校へ。1895年(明治8年)、重誓寺から中村小学校に開校してその後転々として1902年(明治35年5月2日)現在地へ。城北小学校創立記念日とし5教室から始まった。

赤三商店街を見て回り、元生江青少年会館で休憩。歩いた処を思い出し話し合った后解散。

<遠藤雄次郎>